



Hisashi YAMAMOTO

さん(現アミューズ会長)とともに立ちあげた会社に新しい音楽としておもしろいのではないかと、レコード会社のディレクターから届いたデモテープ。その中に入っていたのは「勝手にシンドバッド」。山本さんはすぐに反応した。この曲を作ったバンドと専属契約を結ぼう。このアーティストはいいける。当時6人だったアミューズのスタッフと、6人編成のサザンオールスターズは、こんなふうにならしたのである。

以降、ミュージシャンにとどまらず、俳優や司会者、作家など、あらゆるジャンルのアーティストと契約を結び、アミューズは総合エンターテインメント企業としての道を突き進むことになる。

そんな文化の仕掛人である山本さんはこう語る。「才能があるアーティストを世に出すのがプロデューサーの仕事。俗にいうマネージャーという感覚ではなく、常に時代のニーズを捉え、アーティストの感性を持続させ、メディアをはじめ多様化した世の中に仕掛けていくこと。これがアミューズの基本です。」

アミューズは常にジェネレーションギャップを埋めるために25年間新卒を採用し続け、25年間王道を歩き続

けるサザンオールスターズのプロデューサーは5代目を教える。歌は世につれ、世は歌につれ。ではないが、私たちの心を癒してくれる文化創造の舞台裏は、研ぎすまされた感性の世界だった。

年に数回は山梨に帰る山本さんの楽しみは、幼友達とグラスを傾げること。生まれ育った山梨ではくんだ友情は、時の移ろいとは関係なく今も昔のままという。それはめまぐるしく変わる都会の容ぼうとは対局にある山梨の美しい自然にも似ているともいう。そんな山梨の変わらぬ自然などをロケ地としてアピールするサイト「富士の国やまなしフィルム・コミッション」の話題では、「それはいいことだと思っし、便利なシステムだね。でも、韓国の釜山みたいにもっと大掛かりに甲府の街全体を使ったロケができたらおもしろいね。」と語ってくれた。

そんな山本さんの少年時代には考えられなかった通信インフラとデジタル環境が進展する現在。「甲斐のひと、山本久」は、新たなデジタルコンテンツ大量消費時代を見据え、メディア・デジタル事業、コンテンツ事業に向けて、さらなる可能性への挑戦を始めている。

ア ミューズのビジネスの柱となっているのは、サザンオールスターズをはじめ深津絵里、福山雅治、BEGIN、ボルノグラフィティほか、数多くのアーティストのマネージメント事業。つまり社長の山本さんはいわばそのアーティストたちを世に送り出した張本人なのである。

山本さんは甲府生まれの甲府育ち。山梨大学附属小・中学校、甲府一高と少年時代を過ごし、慶応大学へ。卒業後、実家が甲府の中心で営んでいた薬局を継ぐために薬科大学に入学したが2年で挫折。その後、フィリップス

社系列の国際音楽著作権管理会社インターソング(株)に入社。音楽に関連する人生のスタート、山本さんの人生の転機である。

山本さんはこのビジネスを通じて、著作権を持つアーティストの権利を管理するだけの希薄な人間関係に疑問を抱いた。そして「もっとアーティストと肉薄し、その可能性を引き出すこと、つまり本来のプロデュースこそ、このビジネスの原動力なので...」という理想を実現するために30歳で独立。

チャンスはすぐにやってきた。大里



YAMANASHI People
甲斐のひと、インタビュー

山本 久(やまもとひさし)
1946年甲府市生まれ。
(株)アミューズ代表取締役社長。慶応大学法学部卒業後、フィリップス社系列の国際音楽著作権管理会社インターソング(株)入社。78年(株)アミューズ設立。81年より現職。趣味は、ゴルフ、MBA観戦、JAZZ鑑賞。世田谷区在住。

感性の持続を文化創造というビジネスに 山本久さん